

## 2003～2004年度共同研究について

森 島 覚

追手門学院大学

追手門学院大学オーストラリア研究所は、1996年より毎年オーストラリアの大学・研究者との共同研究を続けてきている。

最初の1996年は、山中雅夫（本学・現常務理事）を研究代表者として、メルボルン大学経済学部スタッフと「オーストラリアの産業政策と日本の多国籍企業」というテーマの共同研究を行った。

2度目の1997年は、南出眞助（現研究所長）を研究代表者として、南クイーンズランド大学スタッフと「オーストラリアの地域開発における内陸・沿岸関係の研究」というテーマの共同研究を行った。

3度目となる1998～2000年にかけては、米原淳七郎（前研究所長）を研究代表者として、ヴィクトリア大学の戦略的経済研究所長のピーター・シーハン教授を中心とするスタッフと「新たな世界経済の動向に対応した、日豪両国の挑戦」というテーマの共同研究を行った。

4度目の2001年は、再び山中雅夫（本学・現常務理事）を研究代表者として、ニューサウスウェールズ大学国際経営関係スタッフなどと「オーストラリア自動車産業と日・豪・韓・米多国籍企業」というテーマの共同研究を行った。

5度目の2002年は、遠山嘉博（本学・現副学長）を研究代表者として、オークランド大学経済学部スタッフなどと「日本・ニュージーランド経済関係の研究」というテーマの共同研究を行った。

そして、6度目となる本2003年から2004年にかけては、ニューサウスウェールズ大学のBraham Dabscheckとキャンベラ大学のAnne Dalyという気鋭の学者を交えての「スポーツ・観光・レジャーの日豪比較」と題する共同研究を継続しているところである。

2003年に於いては、9月3日にシドニーのニューサウスウェールズ大学で最初のセミナーを行い「日本・オーストラリアにおけるプロスポーツの経済学」、「日本・オーストラリアプロスポーツの労使関係」、「サッカー選手の労働市場の日豪比較」、「観光資源および環境価値測定研究の日豪比較」、「国際観光の日豪比較」などといった報告が行われた。さる12月2日に、日本でのセミナーとしてシドニーでの報告をさらに豊富にする形で「日豪プロスポーツの比較：ルール改正とチーム戦力の均等化」、「日本プロ野球選手会が直面している課

題]、「Australian Professional Team Sports In A State Of Flux」などの報告が当オーストラリア研究所で行われたばかりである。

周知のごとくオーストラリアにおいては、「スポーツ・観光・レジャー」といったテーマが世界の中でもモデルを示す成果を挙げている。現在、社会の構造転換のミスマッチに悩む我が国において、21世紀に豊かな国としてさらなる発展を目指すためには、このような課題の充実は避けて通れない。

今回の共同研究は、これまでの経済・経営を中心にしたものから学際的でさらに大きな視野に立ちました所員の本来の学問分野でない新たなテーマともなっている。

その意味から、大きな成果が期待されるとともに未消化に終わる部分も生み出すかも知れないが、不安を抱いて取り組まないよりもとにかく新鮮なものに挑戦しようということから、共同研究としてこのテーマを選択した。

2003年度のオーストラリア研究所「紀要」の共同研究にかかる諸論文は、その前編に相当するものである。